

大阪・関西万博 視察研修

日時 令和7年6月2日(月)～6月3日(火)
場所 大阪府大阪市此花区夢洲
参加者 青年部22名

大阪・関西万博視察研修

青年部は、日本で約20年ぶりに開催されている大阪・関西万博を視察する一泊二日の研修を実施しました。この研修は、単なる視察にとどまらず、業界の今後の展望や、未来の社会に向けた革新技術の導入について深く考える、非常に貴重な機会となりました。



万博テーマと我々の業界との関連性

“いのち輝く未来社会のデザイン”という万博のテーマには、私たちの業界が掲げるビジョンとも通じる部分が多くあります。特に、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが強調されており、環境技術やエネルギーに関する展示が数多く見られました中でも、特に注目したのは日本館の展示です。日本館では、藻類を利用したプラスチック製造技術や、万博会場内で発生する生ごみを微生物で分解し、バイオガスとしてエネルギーに変換する技術など、環境への負荷を最小限に抑える革新的な技術が紹介されていました。これらの技術は、私たちの業界が目指すべき方向性と密接に関わっており、今後の業界のあり方について強い示唆を得ることができました。

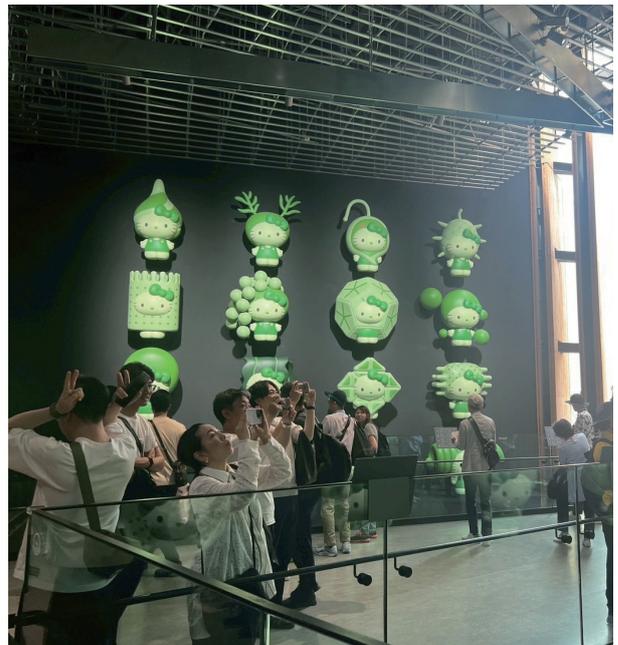


石油を作る藻類と言われているボツリオコッカスを育てている



研修を通じて得た新たな視点

今回の視察研修では、最先端の環境技術に触れると同時に、世界が抱える環境問題への対応策も学ぶことができました。藻類を利用したプラスチック製造技術は、従来の石油由来プラスチックに代わる可能性を秘めており、私たちの業界にも大きなインパクトをもたらすと考えられます。また、生ごみを微生物で分解し、バイオガスとして活用する技術は、循環型社会の実現に向けた極めて重要な取り組みであり、これらの技術が今後どのように実装され、私たちの業界にも応用できるのかを考える良いきっかけとなりました。



大阪ヘルスケアパビリオンの「ミライ人間洗濯機」



近畿ブロックとの交流と親睦の重要性

また、視察研修の後に開催された近畿ブロック22名との合同懇親会では、愛知と近畿の青年部メンバーが対面で交流を深め、業界内の親睦を強化することができました。このような交流の場は、情報交換や協力関係の構築において非常に価値があり、令和8年1月30日に大阪で開催する予定の、産業資源循環連合会 青年部協議会の全国大会（参加目標1,000人）に向けて、各地域間の絆をさらに深めていくための基盤が築かれたと感じています。

今後の展望と青年部の役割

大阪・関西万博という大規模な国際イベントを通じて、業界の未来に対する新たな視点を獲得する素晴らしい視察研修となりました。得られた知見や経験を活かし、私たち青年部も今後の活動において、環境問題や持続可能な技術の導入に積極的に取り組んでまいります。特に、新たな技術やアイデアを業界内に広め、次世代につながる革新を創出するとともに、この貴重な体験を今後の青年部の活動に活かし、業界全体の発展に貢献できるよう努力してまいります。その一環として、最先端の環境技術や持続可能な取り組みについての理解を深めるため、定期的な勉強会やオンラインセミナーを開催し、メンバー間の情報共有を図ってまいります。

